

台湾はえ縄漁船によるミナミマグロ漁獲に関するCPUE分析

要旨

本研究では、ミナミマグロの漁獲により多くの努力を傾けている台湾はえ縄漁船の選抜を試みた。インド洋の南緯20度より南方の海域で季節的にSBTを対象として操業することが認められている全ての稼働中のはえ縄漁船の漁獲量及び漁獲努力量を比較し、大きな漁獲努力量を排除しながらも相対的にSBT漁獲割合を高くキープしている漁船が、選抜漁船として考え得る。

CPUEの標準化は、選抜された漁船から得られたデータに基づいて実施した。CCSBT統計海区と台湾漁船のSBT漁場の両方がGLM分析のファクターとして採用された。標準化されたCPUEは、一般的に、異なる海域ではまったく異なるトレンドを示す。台湾SBT漁船の主要な漁場はCCSBT統計海区のいくつかの海区とは離れているため、CCSBT統計海区が台湾SBT漁船に関して妥当ではないのは明らかである。台湾漁船の特徴に関する時間的、空間的な分析に合わせる形で、台湾のSBT漁業に関するCCSBT統計海区を再定義することは有益であろう。